

その名の由来  
 靈山  
 りょうぜん

忘れずの山（不忘山）と呼ばれた山がいくつかある。

靈山もそのひとつであった。

貞観元年（859年）比叡山延暦寺の座主円仁（慈覚大師）が山に寺を開き、釈迦が修行したインドの靈鷲山（りょうじゆせん）になぞらえて、靈山（りょうぜん）としたと言われています。

靈山町の東部にそびえる山「靈山」は、海拔825m、面積2,270.6haで、新生代第三紀中頃（約2,500万年前）の火山活動によって噴出した玄武岩質の火山角礫岩や溶岩が長年の風化浸食作用によって形成され、奇岩怪石が屏風のようにそびえたっています。この奇岩怪石の岩肌の侵食景観は四季を通じて趣があり、特に春の新緑や秋の紅葉はすばらしいものがあります。

